

ぎふ感染症かわら版

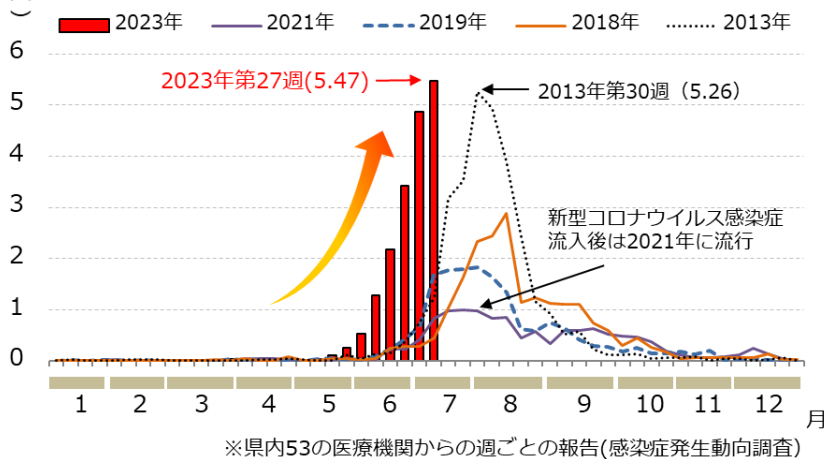
令和5年7月18日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



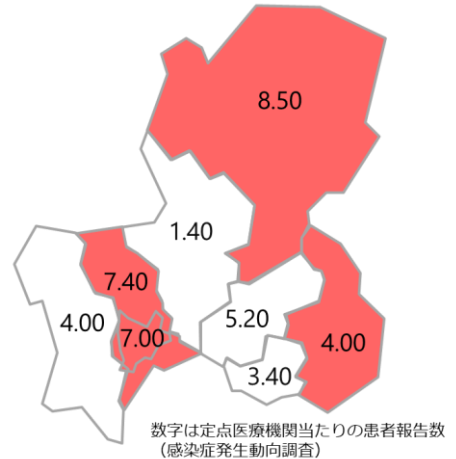
「ヘルパンギーナ」の患者報告数が過去10年間で最高になりました

ヘルパンギーナは乳幼児を中心に流行する夏かぜの一種です。現在、全国的に大流行しており、小さいお子さんのいる家庭や保育所などでは、感染予防対策をお願いいたします。

定点医療機関当たりの患者報告数の推移(岐阜県)



ヘルパンギーナの患者報告数が警報レベル※の保健所管内（2023年第27週）



数字は定点医療機関当たりの患者報告数(感染症発生動向調査)

※警報レベルは国立感染症研究所が定めた基準を用いています。定点医療機関当たり報告数が、開始基準値以上で開始し、終息基準値未満で終息します。ヘルパンギーナの警報レベル：開始基準値；6.00、終息基準値；2.00

ヘルパンギーナは、5才以下のお子さんが多くかかります。り患すると高熱が出て、のどが赤くなり口の中に水疱(すいほう) (水ぶくれ) ができます。多くの場合、数日で自然に治りますが、強い喉の痛みのため、食事や飲み物を受けつけず脱水症を起こすことがあります。また、まれに髄膜炎などを起こすことがあります。



ヘルパンギーナ※は飛沫や手指を介して感染するため、**石けんを使ったこまめな手洗いや感染者との密接な接触を避ける**ことが主な予防法となります。特にトイレの後や、お子さんのおむつ交換をした後は必ず石けんで手を洗いましょう。唾液のついたおもちゃなどは洗浄・消毒※注を行いましょう。またマスクの着用や咳エチケットも有効とされています。

※この病原体（ウイルス）は、症状が治まった後も2～4週間、便の中に出てくることもあり、長い間周りの人への感染源となる可能性があります。注意が必要です。

※注：このウイルスは強い消毒抵抗性を示すため、一般に塩素系の消毒剤が有効とされています。（アルコールでの消毒には長時間を要する場合があります。）



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

